

生きがい喪失

Das Leiden am sinnlosen Leben

ヴィクトール・E・ فرانクル

Viktor E. Frankl

訳◆中村友太郎

悩み

の

生きがい喪失の悩み

ヴィクトール・E・フランクル

中村友太郎 訳

講談社学術文庫

ヴィクトール・E・フランクル

Viktor Emil Frankl (1905 - 1997)。オーストリアの精神科医、心理学者。ナチスによる強制収容所での体験を元に著した『夜と霧』は世界的ロングセラー。他の著書に『死と愛』『それでも人生にイエスと言う』など。

中村友太郎（なかむら ともたろう）

1937年東京生まれ。東京大学教養学部卒。上智大学文学部教授を経て、現在同大学名誉教授。共編著に『未来の人間学』、訳書に『思索への34階梯』『教会史提要』など。



講談社学術文庫

定価はカバーに表示してあります。

い　　そうしつ　　なや
生きがい喪失の悩み

ヴィクトール・E・フランクル／^{なかむらとも たろう}中村友太郎 訳

2014年10月10日 第1刷発行

発行者 鈴木 哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽 2-12-21 〒112-8001

電話 編集部 (03) 5395-3512

販売部 (03) 5395-5817

業務部 (03) 5395-3615

装 幀 蟹江征治

印 刷 株式会社廣済堂

製 本 株式会社国宝社

本文データ制作 講談社デジタル製作部

© Tomotaro Nakamura 2014 Printed in Japan

落丁本・乱丁本は、購入書店名を明記のうえ、小社業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取替えします。なお、この本についてのお問い合わせは学術図書第一出版部学術文庫宛にお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。㊞(日本複製権センター委託出版物)

ISBN978-4-06-292262-3

目次

生きがい喪失の悩み

訳者はしがき	3
--------	---

序論 生きがい喪失の悩み	13
--------------	----

精神療法を再び人間的なものとするために	59
---------------------	----

フロイトとアドラーとユング	60
---------------	----

ロゴセラピー	78
--------	----

逆説的志向	92
-------	----

反省除去	107
------	-----

意味への意志	117
--------	-----

実存的欲求不満	124
---------	-----

苦悩の意味	132
-------	-----

医療上の司牧	141
--------	-----

ロゴセラピーと宗教	151
-----------	-----

力動的心理学主義の批判に寄せて	164
-----------------	-----

付録 精神医学者は現代の文学に対して

どのように語っているか……………179

学術文庫版への訳者あとがき……………196

解説 フランクル——絶望に効く心理学——……………200
諸富祥彦……………

ロゴセラピーに関する著書精選……………246

事項索引……………250

人名索引……………253

生きがい喪失の悩み

ヴィクトール・E・フランクル

中村友太郎 訳

講談社学術文庫

SS4464

主著者の氏名

著者名・日・ローマ字

題名・英訳中



DAS LEIDEN AM SINNLOSEN LEBEN

by

Viktor E. Frankl

Copyright © 1977 by Viktor E. Frankl, Wien

Japanese translation published by arrangement with
Viktor Frankl Book Rights through The English Agency
(Japan) Ltd.

訳者はしがき

ヘルダー双書の書き下ろしの一点として本書の原典が刊行されたのは、一九七七年四月のことであつた。それ以来、すでに一九七八年一〇月には第四版が出版されている。もともと、二〇世紀ユダヤ教の代表的ラビのひとり「レオ・ベック（一八七三—一九五六）」を記念して」と記されているこの書の原著者ヴィクトール・E・フランクについて、その第二次大戦中のナチス体験記録である『強制収容所における一心理学者の体験』*Ein Psycholog erlebt das Konzentrationslager*, 1947（霜山徳爾訳『夜と霧』みすず書房、一九五六年）ほかの名著によつて、わが国にもすでに識者が多いのであえて紹介するまでもないであろう。かつて米国のハーヴァード、スタンフォード、ダラス、ピッツバーグの諸大学で教えたフランクは、現在はウィーン大学において神経学と精神医学の教授であると同時に、カリフォルニアにある合衆国国際大学の「ロゴセラピーの教授」職にある。ジークムント・フロイトの勧めによつて、一九二四年の『国際精神分析雑誌』に最初の刊行物《Zur mimischen Bejahung und

Verneinung》が掲載されて以来、息の長い著述活動が続けている فرانクル であるが、その米国版の著書《Man's Search for Meaning. An Introduction to Logotherapy》Simon and Schuster, New York の場合、たちまち五十数版を重ね二〇〇万部もの普及を見ている。彼の積極的な教授活動はさらに、アメリカ・オーストラリア・アジア・アフリカの総計一七三の大学に招かれての数々の講演旅行のかたちにも示されてきた。

原典たるヘルダー文庫版では、本書について次のような紹介文が付けられているので訳出しておこう。

「どのような時代にも固有の神経症があり、それなりの精神療法を必要としている。現今の典型的な患者はもはや、アルフレート・アドラーの時代におけるように劣等感に悩むのではなく、むしろ、麻痺させる空しさとして感じ取られる、底知れない無意味の感情に苦悩している。ヴィクトール・E・フランクルによつて開発された「ロゴセラピー」の助けをかりることによつて、このような実存的な真空はたいていの場合、成功裡に処置されることができた。本書は読者に対して、ウィーン式精神療法のこの世界的に知られた首唱者の研究および実践への魅惑的な洞察を提供することであろう。著者は多くの事例に即して、生きがい喪失の悩みがどのようにして治療可能と

なるかを示している」。

精神療法をふたたび人間化しようと求めている本書は、比較的小型の著作ではあるが、理論と実践の両面にわたり、決して益する所少なからぬ良書であると考えて、ここに拙い翻訳力を傾注することにした。未消化な訳文のために原著の親しみ易さをおおいかくすことが少なければそれだけ幸甚と思う次第である。

本文中の（ ）は原著者によるもの、「」は訳者が付したものであるが、訳注はとくに載せなかった。なお、巻末の文献表にもあるが、ドイツ語原典で読まれる諸氏には、全著作からの選集として三二二ページの単刊本のかたちに編まれた次のものがあるので、お勧めしておきたい。

Viktor E. Frankl: *Der Mensch vor der Frage nach dem Sinn*, R. Piper & Co. Verlag, München-Zürich, 3 Auflagen, 1979-1982.

訳稿の一応出来上がった段階で、原著者の勧めに従い、わが国での旧来のご友人であり、かつロゴセラピー学会日本支局長である医学博士、高島博氏に、奇しくもその七〇歳の誕生日にお目にかかり、原著者の人柄と思想について多々お教えいただいた

た。訳者の所属する上智大学文学部の霜山徳爾教授のご教示とあわせてここに心から感謝申し上げる。最後に、訳出の機会を示唆してくださったエンデルレ書店主と出版部長山田剛太郎氏の仲介に感謝して序言としたい。

一九八二年四月・主のご復活節に

訳者

目次

生きがい喪失の悩み

訳者はしがき	3
--------	---

序論 生きがい喪失の悩み	13
--------------	----

精神療法を再び人間的なものとするために	59
---------------------	----

フロイトとアドラーとユング	60
---------------	----

ロゴセラピー	78
--------	----

逆説的志向	92
-------	----

反省除去	107
------	-----

意味への意志	117
--------	-----

実存的欲求不満	124
---------	-----

苦悩の意味	132
-------	-----

医療上の司牧	141
--------	-----

ロゴセラピーと宗教	151
-----------	-----

力動的心理学主義の批判に寄せて	164
-----------------	-----

付録 精神医学者は現代の文学に対して

どのように語っているか……………179

学術文庫版への訳者あとがき……………196

解説 フランクル——絶望に効く心理学——…諸富祥彦…200

ロゴセラピーに関する著書精選……………246

事項索引……………250

人名索引……………253

生きがい喪失の悩み